

戸塚区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ 実施概要

対象事業	戸塚区地域子育て支援拠点事業
対象期間	平成30年度～令和4年度
事業の実施者	特定非営利活動法人 子育てネットワークゆめ
	戸塚区こども家庭支援課
実施目的	<p>1 今期5か年の事業を振り返り、成果や課題、今後の方向性などを整理します。</p> <p>2 市民協働事業の実践を通じて経験を蓄積し、その後の市民協働や市民協働事業に活かしていくため、また、当該協働事業の当事者だけでなく、多くの市民等の協働への参加意欲を高めるため、当該評価を公開し、透明性を高めます。</p>
実施時期	令和4年5月
実施について	<p>拠点事業は、区と運営法人との協働により進めています。</p> <p>毎年度、事業ごとに定めている「目指す拠点の姿」に沿って役割分担し、行動計画を立て、年度末には「振り返りの視点」に沿って取組の振り返りを行いながら事業を進めてきました。また、中間期には「有識者を交えた事業評価」を実施し、事業の運営・管理にフィードバックして拠点運営状況の向上を図っています。</p> <p>今回は、中間期に行った「有識者を交えた事業評価」にその後の事業振り返りを加え、今期5か年のまとめとしました。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【参考】 拠点の7事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供（親子の居場所事業） 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること（子育て相談事業） 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること（情報収集・提供事業） 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること（ネットワーク事業） 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること（人材育成、活動支援事業） 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること（横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業） 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること（利用者支援事業） </div>

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・利用者の多様なニーズに合せた対応を心がけているが、様々な意見をいただいている。そのご意見を提言ととらえてより良い対応の検討を相互に継続していく。 ・利用しやすい工夫や、ひろばで開催されているプログラムの詳細を区がしっかり捉え、更に広く区民に周知していき区全域と拠点をつなげていく。特に拠点で好評だったプログラムなど拠点のスキルを広域に展開できる具体策と一緒に検討していく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		B	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		B	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

利用人数・新規登録数		利用者										新規登録数
年度	開所日数	子ども	母	父	祖父	祖母	プレパパ	プレママ	支援者その他	合計		
H29年度	240	15,363	12,735	974	51	291	1	60	2,163	31,696	1,599	
H30年度	241	17,279	14,045	958	31	263	24	72	2,368	35,306	1,763	
R1年度	239	東戸塚	12,793	10,558	857	33	212	52	88	1,708	26,301	1,073
		サテライト	12,216	9,988	839	28	138	25	32	707	23,973	1,315
R2年度	240	東戸塚	7,684	6,810	504	5	47	56	67	879	16,052	574
		サテライト	7,846	6,414	510	8	17	29	40	490	15,354	646
R3年度	242	東戸塚	9,028	7,680	761	6	54	65	78	1,277	18,949	649
		サテライト	9,828	8,262	748	6	42	53	84	901	19,924	812

仲間づくり・親育てのプログラム (R3年度実績)

- ・おしゃべりタイム ※注1…年20回 延べ120組 「戸塚はじめてさんの会」「パパ」「ふたごみつごの会」「ふたごみつごタイム」「ちょきっとママの会」※注2「ダウン症児の親の会」など
 - ・パパ向けプログラム…年6回 参加人数：36組、「パパうるかむの日」「パパ友DAY」など
 - ・0歳児プログラム…「4回連続講座ハッピーママ」年6回 39組、「赤ちゃんタイム」年69回 延べ1013名
 - ・土曜両親教室…年15回 113組
 - ・オンラインプログラム…「産前産後カフェ」年7回 20組、「赤ちゃんとおそぼ」年13回 54組
 - ・オンライン子育て講座…「トイレトレーニング」年2回 41組、「イヤイヤ期」6組、「子どもの遊びとおもちゃ」15組、
- ※注1 テーマを決めて、利用者同士が交流をする会
 ※注2 ちょきっとママの会 発達が気になる子を持つママの会

とっこの養育者アンケート Q 施設について	施設について		気になる事がある	未回答
	良い	普通		
ひろばの安全面・衛生面	88.2%	10.5%	1.0%	0.3%
子育ての相談のしやすさ	65.5%	32.9%	0.7%	1.0%
スタッフへの感謝のしやすさ	87.2%	12.8%	0.0%	0.0%
ひろばの居心地	81.9%	16.8%	1.0%	0.3%

- R1利用者アンケート 【拠点利用後の子育ての変化について】N=304 複数回答
- 1 スタッフの対応(遊び方・声のかけ方など)が子育ての参考になった 53.6%
 - 2 他の親子の対応(遊び方・声のかけ方など)が子育ての参考になった 50.3%

①笑顔で利用者を温かく迎え入れる雰囲気づくりを心掛けている

- 1.来館者すべての人に笑顔で挨拶し一人ひとりに声掛けをして迎え入れるように心掛けている。安心して過ごせる場づくりとして日々の清掃やおもちゃの消毒、また地震・火災・防犯の訓練を行ったことで、ひろばの居心地や安全・衛生面についての満足度は高い評価を受けた(利用者アンケートより)
- 2.1人で来館しにくい、同年齢の子どもを持つママと交流したい、転居してきて仲間を作りたいなどの声から、仲間づくりのプログラムを企画し開催したところ、友達作りのきっかけとなり友達同士で拠点を利用したり、地域の居場所に行った際に顔見知りの母子がいて安心したという声が聞かれた。一方でイベントの時だけの利用者も多く日常の利用につなげることも課題の1つと捉えている。
3. 赤ちゃんタイムを定期的に開催したことで、低月齢の赤ちゃんの来館のきっかけや仲間作りが活発に行われた。

②多様な養育者の利用につながる取組や工夫を行った

1. 妊娠期からの利用を促すイベントとして、区と協力して沐浴体験や先輩ママパパとの交流を主とする「土曜両親教室」を平成31年5月から開催した。妊娠期から拠点を知ってもらおう事で出産後の利用につなげ、その後「土曜両親教室」の交流タイムに先輩として参加し育ちあいの場になってる。より多くの方に参加してもらう為、拠点以外の会場(地域ケアプラザなど)で開催したが、地域の方の参加につながらなかったのが課題となった。
2. 父親同士もつながりたいという要望に応え、父親向けのおしゃべりタイムを定期的に開催し父親同士の交流を促した。また父親のひとりが講師となり、パパ講座にて活躍している。
3. 障害のある児、発達特性のある児に向けた取組として、「ちょきっとママの会※注2」「発達懇談会※注3」「ダウン症児の会」を定期的に行なったが、参加する利用者が年々減少していることが課題であったが、少人数でも継続して開催することで居場所の提供ができた。また、「ひとり親支援」として、フードパントリーを訪問したり、出張ひろばを開催しニーズの把握に努めた。ニーズにあった支援ができるように、区や専門家に相談しながら取り組みたい。

※注3 発達懇談会 発達に気になる1歳半から3歳児を持つ親の座談会 戸塚地域療育センターの職員がファシリテーターとして参加している

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

③養育者からのニーズが高い要望を事業に活かす取組ができた

1. 幼稚園・保育園情報が欲しいという利用者からの要望に応え、幼稚園児・保育園児を持つ親へアンケート協力や口コミ情報から、得られた貴重なデータをひろばに閲覧した。保育・教育コンシェルジュとも情報共有している。プレ幼稚園情報についてもわかる範囲で情報収集しひろば掲示を行った。オンラインでニーズの高い保活講座※注4を開催したことで、拠点利用者だけでなく訪れることが難しい養育者からの参加につながった。
2. 一時保育についての相談が多く、区の保育コンシェルジュ等と連携し情報収集に努めている。
3. 利用者との日常会話から集めた声を、スタッフ間で共有し事業に反映できている。

④養育者、子ども同士の学びになる場づくりを心掛けている

1. 廃材を使ったリサイクルおもちゃ製作をひろば内で行うことで、興味がある人同士につながりが生まれ、お互い子育ての悩みを話すなど交流の場となった。また利用者の低月齢化で、0歳児でも楽しめるふれあい遊びを多く取り入れ、利用者に伝えることができた。
2. 利用者から年齢にあったおすすめの本についての相談が多く、読み聞かせボランティアと共に、本を年齢別・種別にテーブルで分類し並び替えた。利用者の本を借りる時の目安となっている。
3. 子ども同士のおもちゃの取り合いやぐずりへの対応など、スタッフの関わりが養育者のヒントとなるように心掛けたことで、利用者アンケートで高い評価を得た。また他の親子の対応が子育ての参考になったという回答も多く、ひろばが学びの場になっている。
4. 産後1か月～4か月の初めて子育てをする親向けのプログラム（ハッピーママ）を講師と共にととの芽で開発し定期的に開催。内容は子育ての悩みや楽しみを同月齢の親同士で話し合い共感できるよう構成し、4回連続で行うことでプログラム終了後もつながりを持てるようにした。参加者からも、低月齢での初めてのお出かけのきっかけとなり安心して出かけられると好評を得ている。今後は拠点だけでなく地域展開できるよう区と共に検討していきたい。
5. オンラインおしゃべりタイム「赤ちゃんとおそば」「産前産後カフェ」を定期的に開催した。外出が難しい方や里帰り中の方にも居場所を提供することができ、来館にもつながった。

※注4:保活講座 保育園探しをしている家庭向けの情報提供講座 保育園探し活動の意味

様式1-1 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ①拠点スタッフミーティングに保健師が交代で出席、また、サテライトにおいても、周辺地区担当保健師と来所者共有ミーティングを行い、スタッフに対し利用者の相談時の対応の振り返りや関わり方の助言を行っている。
- ②母子健康手帳交付時や、両親教室にて拠点の周知を行う他、妊娠期から拠点につながるよう、R1年度より土曜両親教室が拠点・サテライトで始まり、今後は内容の検討、地区展開に向けた事業内容を検討していく。ちょきっとママ、ダウン症児親の会、多胎児向けの事業の周知や助言を行っている。
- ③公園遊び、子育て連絡会、まっぴい※注5作成時など各種事業を行う前後の打ち合わせや定例会などで、区保健師が日々の業務で把握している母子や地域の状況を随時共有し、事業運営に反映した。
- ④居場所運営状況について、引き続き定例会や、ひろばスタッフのミーティングに参加し、利用状況等タイムリーに共有できるように、区と拠点スタッフの連携を強化していく。

※注5 まっぴい：戸塚区が発行している子育て情報冊子

拠点事業としての成果と課題

〔成果〕

- ・子ども同士、利用者同士の関わりを大切に考え日々対応した。安全面、スタッフへの話しかけやすさ、ひろばの居心地の良さは利用者アンケートで高い評価を得た。
- ・R1年度よりサテライトが開所し、今まで拠点に訪ねられなかったエリアを含め、より多くの親子に利用してもらえるようになった。
- ・0歳児プログラムは、産後すぐのお出かけのきっかけとなりコロナ禍でも多くの0歳児親子が集い、産後の不安解消や仲間づくりの場となった。
- ・妊娠期からの切れ目のない子育て支援の取り組みとして「土曜両親教室」を拠点で実施。妊娠期から拠点を知ってもらう事で、出産前から拠点の利用につながったり、出産後も利用する方が増えてきている。また産前から産後にかけて参加できるプログラムを企画し、チラシで周知したことも拠点利用につながるきっかけとなっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響でひろば利用に不安がある方たちに向けて、オンラインを活用した交流や学びの場や、InstagramやYouTubeで遊びや手づくりおもちゃ、おうちからでも楽しめる動画の発信をしたことで、養育者の孤立感の軽減や、ひろばの様子を見ることができ初めての来館につながった。

〔課題〕

- ・区と共に協議を重ね開始した「土曜両親教室」は、拠点で参加できる組数に限界があるため拠点以外の会場(地域ケアプラザなど)での開催や、平日版の開催など開催回数を増やしより多くの参加を目指す。
- ・子どもの育ちに心配のある養育者が増えており、ひろばの表示やおもちゃなど、子どもたちが過ごしやすい環境を区や専門家の意見を取り入れながら作っていききたい。
- ・現在の養育者の姿から、保育園探しに忙しく仲間づくりをする時間がない利用者やコミュニケーションが苦手な利用者など多くみられ、養育者の姿が変化してきている。短期間のひろば利用で仲間づくりや少し先を見通した育児を経験できるような利用者との関わりに努めたい。
- ・拠点に来るのが難しい遠方の方に向けて、地域で出張ひろばを展開したい。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区子ども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2.子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)																																						
		法人	区																																					
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・「相談者に寄り添う伴走者」として、今後も相談者の対応にあたる必要がある。 ・多様な養育者に対応していくために、さらなる職員のスキルアップのための研修を今後も続けていく必要がある。	A	A																																					
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。		A	A																																					
評価の理由(法人)																																								
(主なデータ) <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">ひろば相談件数</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">ひろば利用者アンケート Q.施設について</td> </tr> <tr> <th>H29年度</th> <th>R1年度</th> <th>R3年度</th> <th colspan="2">満 足</th> <th colspan="2">気になることがある</th> </tr> <tr> <td>1,953</td> <td>2,500 (東戸塚)</td> <td>2,524 (東戸塚)</td> <th>H28年度</th> <th>R1年度</th> <th>H28年度</th> <th>R1年度</th> </tr> <tr> <td></td> <td>2,057 (サテライト)</td> <td>2,023 (サテライト)</td> <td>子育ての相談のしやすさ</td> <td>61.0%</td> <td>66.1%</td> <td>4.0%</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>スタッフへの話しかけやすさ</td> <td>84.7%</td> <td>87.2%</td> <td>2.7%</td> <td>0%</td> </tr> </table>				ひろば相談件数			ひろば利用者アンケート Q.施設について				H29年度	R1年度	R3年度	満 足		気になることがある		1,953	2,500 (東戸塚)	2,524 (東戸塚)	H28年度	R1年度	H28年度	R1年度		2,057 (サテライト)	2,023 (サテライト)	子育ての相談のしやすさ	61.0%	66.1%	4.0%	0.1%				スタッフへの話しかけやすさ	84.7%	87.2%	2.7%	0%
ひろば相談件数			ひろば利用者アンケート Q.施設について																																					
H29年度	R1年度	R3年度	満 足		気になることがある																																			
1,953	2,500 (東戸塚)	2,524 (東戸塚)	H28年度	R1年度	H28年度	R1年度																																		
	2,057 (サテライト)	2,023 (サテライト)	子育ての相談のしやすさ	61.0%	66.1%	4.0%	0.1%																																	
			スタッフへの話しかけやすさ	84.7%	87.2%	2.7%	0%																																	
相談内容 H29年度 1位 子どもの生活 2位 子どもの発育 3位 就園 4位 親自身 R1年度 1位 子どもの生活 2位 子どもの発育 3位 親自身 4位 就園 (東戸塚・サテライト) R3年度 1位 子どもの発育 2位 子どもの生活 3位 親自身 4位 就園 (東戸塚) 1位 親自身 2位 子どもの発育 3位 子どもの生活 4位 就園 (サテライト)																																								
専門相談 東戸塚：管理栄養士・保健師・保育教育コンシェルジュ (H29年度 124件 ⇒ H30年度 130件 ⇒ R3年度 115件) サテライト：臨床心理士・管理栄養士・保育コンシェルジュ R1年度 113件⇒ R3年度 245件 座談会 (集団相談) 栄養11回 発達懇談会2回 助産師4回 計147組参加 スタッフ研修 スーパーバイザー(保健師)、臨床心理士、区保健師、助産師、療育センターソーシャルワーカー等																																								
①気軽に相談できる雰囲気や仕組みづくりと相手に寄り添う相談対応を行う工夫を行った ・スタッフの工夫について 1.ひろばでの何気ない日々の会話を継続することで養育者とひろばスタッフの間に信頼関係が生まれ気軽に相談できる雰囲気づくりができています。また相談者自身が見通しを持ち意思決定できるよう傾聴に努め、毎日のスタッフミーティングで共有している。 2.新規来館者にはより丁寧にに対応するよう心掛けている。利用案内時には説明だけに終わらず適切な相談の情報(子育てパートナーの常駐、専門相談など)を伝えている。 3.養育者からの身近な相談の際には、他の養育者にアドバイスを求めるなど同じ悩みを持つ方同士をつなげて解決方法を見つけてもらえるようにしている。 ・体制について サテライトができたことで相談できる場や専門相談の回数、種類が増え養育者がより選択できるようになった。相談を適切に受け止められるようひろばのスタッフスペースに記録票を設置した。日々の振り返りで相談対応を共有することでひろばスタッフ相互のスキルアップにつながり、チームとして丁寧に養育者の相談対応に努めている。 ・スタッフ研修について スーパーバイズ研修(保健師)をR1年度より毎月の専門相談日に設定し、相談対応についてなどひろばスタッフの聞きたいことがすぐに聞けるようになった。専門相談員(臨床心理士)とのカンファレンスでは様々なアプローチの仕方をひろばスタッフが学ぶことができ、養育者との相談に活かすことができています。																																								
②関係機関との連携を密にし、お互いに情報の共有を行った。 1.ひろば相談では、内容に応じて横浜子育てパートナー、横浜子育てサポートシステム、区や専門相談員と連携し、継続的な見守りができている。 2.横浜子育てパートナーが配置されたことで、ひろばスタッフも安心して相談を受けることができるようになり、区、関係機関との連携が強化され、継続的な見守りに繋がった。 3.拠点のカンファレンスに保健師が継続的に参加したことにより、拠点の相談実状についての相互理解ができ、助言も得られた。																																								

様式1-2 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- ①区職員が定期的にスタッフミーティング等の場を活用し、相談対応の助言を行った。またひろばスタッフのスキルアップをはかるため、講座、研修、区事業をスタッフへ情報提供している。
- ②区の継続支援が必要と思われる事例や支援困難事例があった場合、関係機関につなげる体制の確認を行った。日々の相談内容の傾向について分析し、養育者の育児不安の解消がはかれるよう座談会を企画、実施。その後、まっぴい改定に活かすことができた。ひろば相談から子育てパートナーに繋がり支援に広がる仕組みがつけられた。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・相談件数の増加、話しかけやすさの満足度向上から、養育者にとって拠点が安心して相談できる場となっている。拠点に何度も通うことで養育者自身が力をつけ、スタッフへ相談する以外に、養育者自ら周囲の養育者へ尋ねて解決したり、他の養育者にアドバイスしたりする姿も見受けられるようになり、養育者同士が気軽にやりとりできるような関係構築につながった。
- ・横浜子育てパートナーが配置されたことで、ひろばスタッフも安心して相談を受けることができるようになり、横浜子育てパートナー、ひろばスタッフが両輪となって相談対応することで継続的な見守りにつながった。また、スーパーバイズ（保健師）研修やスタッフ勉強会を毎月行い、ひろばスタッフのスキルアップに繋がった。
- ・ひろばスタッフが受けた相談は養育者の相談内容に応じ、横浜子育てパートナー、横浜子育てサポートシステム、専門相談員（臨床心理士）、区と連携し、必要な支援へつなぎ、継続的な見守りにつながった。
- ・専門相談の予約段階や当日の天候不良の為、オンライン希望の方には対応し不安軽減に繋がった。

(課題)

- ・相談内容の傾向について把握、分析し、養育者のニーズをひろば運営につなげていくことが必要。
- ・サテライト開所や世代交代により新人スタッフが増えたので、引き続き傾聴等テーマとした相談スキル取得の研修を企画、実施し、ひろばスタッフ全体の相談対応におけるスキルアップへ取り組む。
- ・区と拠点、お互い顔の見える関係性を構築できるような連携を継続。必要時、相談事業で双方が連携し、養育者のニーズに応じ、タイムリーな相談対応を目指す。

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	様々な団体が情報提供しているが、提供媒体(ホームページやメールマガジン)にたどり着けない養育者がまだ多く存在し、情報収集の方法がわからないという声があった。点在する情報をまとめ、検索しやすい仕組みを検討する必要がある。特に妊娠期については、母子健康手帳交付時と母親教室にて情報周知に努め、さらに産婦人科医院・病院の訪問を行い、子育てに関する情報の配架をしてもらえるよう協力依頼を行う。	B	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		A	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

発行物：「つうしん」2000部/月(市内関係施設130か所に毎月送付) 「情報紙ゆめ」 2000部(年2回)「まっぴい」(年1更新)
 配信ツール：メルマガ(R2.6月終了)「とっとあぶり※注1」 毎週金曜配信 登録者数 1626件、ホームページ、ブログ 「地域こそだてカレンダー※注2」

Instagram： フォロワー数1201件 投稿数157件 youtubeでの動画配信数20件等

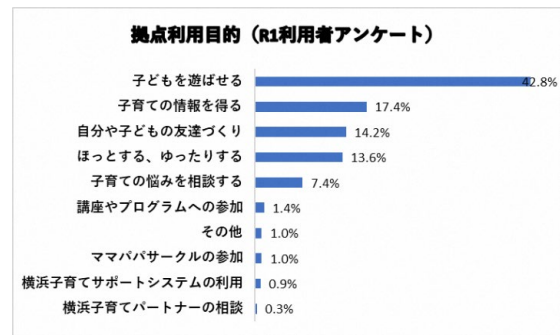
周知活動：広報とつか 隔月でトピックスを掲載、エフエム戸塚(月1回)

養育者企画の情報グループ：「情報紙ゆめチーム」 4名

「まっぴいママプロジェクト」 5名

※注1 とっとあぶり：区内で行っている子育てイベントや講座、区役所からの臨時情報などを配信するアプリ

※注2 地域こそだてカレンダー：地域情報をまとめたホームページ。アプリ情報と連動している



R1戸塚区アンケート：

【子育てに関する情報収集の方法】

「インターネット(SNS)」68.3%、「保育園・幼稚園」37.1%、「口コミ」29.2%、「新聞・テレビ・雑誌」22.5%

その他：R1拠点利用者アンケート調査「拠点の利用目的」の回答→「子育ての情報を得る」が2番目に高い(区調査・拠点調査・市域調査全て2位)

① 様々な媒体とネットワークを活用した情報の収集と提供を行った

- 紙面、WEB(ホームページ・ブログ)、メールマガジン、とっとあぶり、子育て応援ルームとことこ※注3と連携し、広報とつかなどの媒体を活用し、地域の子育てイベントや講座、拠点の様子などを区民にタイムリーに幅広く情報発信した。特に情報収集の手段としてスマートフォン(SNS)利用が増加していることから、より見やすく情報提供ができるアプリを岩崎学園情報専門学校と共同で開発した。妊婦向けの情報もアプリに集約したことで、就学前までの情報を切れ目なく提供できるようになった。今後はより多くの養育者に活用してもらえるようアプリの周知活動、内容を充実させていく。
- コロナで地域施設が休止してしまった期間にはInstagramなどのSNSを活用し、自宅で楽しめる遊びの紹介など情報を発信した。また区や地域で支援をしている方の配信協力を行った。SNSを利用していない養育者に向けては、つうしん瓦版として遊びの紹介記事を掲載し、拠点の入り口や店舗など通りがかりに手に取れる場所に配架した。
- 初めての拠点利用者には、居住地域の情報セットやまっぴいを活用しスタッフが近隣情報を伝えている。また離婚相談、ひとり親家庭支援、児童虐待などのパンフレットはひろば掲示の他、手に取りやすいよう封筒と共にトイレに用意し、こまめに補充や入れ替えを行った。
- スタッフが地域の支援会場へ見学や訪問し、支援者や参加者と直接話したことや実際に見聞きした生きた情報をスタッフで共有し養育者・担い手に向けて提供・発信した。また支援者とのつながりもでき、地域で周知したい情報の発信依頼を頂けるようになった。
- 保育園情報が欲しいという養育者のニーズに答え、保育園アンケートを実施、ひろばで閲覧できるようにした。また、オンラインにて先輩ママたちによる保活講座※注4を実施し、拠点に来館できない養育者たちにも情報を届けた。

②情報提供機能が区民に認知されてきている

- 拠点の情報収集・提供機能について、関係機関からの情報の集約の他に、行政広報誌・地元ラジオ局等様々な方法で区民に周知を行った。(広報とつか、エフエム戸塚、地域フリーペーパーなど)
- 地区別子育て連絡会を通じて情報収集・提供を積極的に行ったことで、さらに拠点へ地域情報を頂けるようになった。またメールマガジンやアプリをきっかけに、地域の支援会場に訪ねた参加者がいたという声がかかる。

3.子育て支援活動をしている団体からのチラシ配架依頼が増えた。持ち込みの場合は活動内容の聞き取りをし、連携できることがあれば提案をした。

4.区との連携で、産婦人科医院・両親教室での情報提供が可能となり妊娠期の方へ情報を届けることができた

③養育者・担い手が情報発信に関わる企画や仕組みを構築した

1.幼稚園口コミ情報では、来館した幼稚園児を育てる母にアンケートを行い、集めた情報をひろば内で閲覧できるようにしたところ利用者・担い手にとっても好評だった。

2.養育者が中心となって企画・取材を行い、子育て情報紙を年1~2回発行し、市内関係機関へ送付した。

3新型コロナウイルス感染症予防対策によるイベント・講座の中止など急な変更情報が地域の担い手から情報提供があり、アプリやメールマガジン、ホームページで臨時配信を行った。

4.戸塚区内の子育て情報をまとめた冊子「まっぴい」のリニューアル作業や記事の作成に養育者が参画し、当事者ならではのアイデアを活かし作業に取り組んだ。

評価の理由(区)

①②こんにちは赤ちゃん訪問、母子訪問、まっぴいから拠点を知らる人もおり、母子手帳交付時、乳幼児健診、家庭訪問等で拠点の情報提供を行い、区内の幅広い地域へ周知し、利用につなげている。

情報を届ける仕組みとして、紙媒体でまっぴいを作成、R3年度からは区ホームページにも掲載し、毎年情報更新を実施した。広報よこはま戸塚区版にコラムや戸塚区の子育て情報をテーマに掲載し拠点事業を周知できるよう働きかけた。

拠点の子育て情報アプリ開発の後方支援を実施し、より見やすく、タイムリーな情報が得られる仕組みができた。アプリ配信後は、利用者・支援者への周知の検討を重ねていく。

①まっぴいは継続した基本的な情報、アプリは最新の情報を発信できるように整理して、わかりやすくなった。

②③令和2年度まっぴい作成に向けて、養育者の声を聴く場として、令和元年度に座談会を開催した。まっぴい改定企画に養育者が携わり、より親子のニーズを取り込んだ内容となった。

子育て連絡会、地区別連絡会を開催。地域の子育て支援関係者(拠点、保育園、ケアプラザ、主任児童委員、子育て支援者など)の参加が広がり、地区単位での子育て世帯のニーズの把握、情報交換、発信の場となっている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・地域の支援会場への訪問や地区別連絡会を通して、実際に見聞きした情報をスタッフ間で共有し養育者・担い手に向けて提供・発信することができた。また地域の支援者に向けて情報発信機能の周知活動をしたことで、緊急時や集客したいイベントの周知協力依頼が増えた。拠点の情報発信ツールがきっかけで地域のイベント参加へつながる養育者も増えた。

・今まで行っていたメールマガジンと地域こそだてカレンダーを連動させ同一情報が配信できるアプリを開発したことで、配信内容の誤りや誤配信をなくし、正確な情報をタイムリーに養育者・担い手に届けることができた。

・紙媒体やアプリ、SNSも活用しさまざまな媒体で拠点に来ることが難しい方たちへも情報を届けることができた。

(課題)

・拠点を利用しにくい地域の親子への情報提供について、地域の施設や担い手の方からも拠点の情報機能が伝わるよう、地域とのつながりを大切に、日々の情報交換や地区別連絡会などで発信していく。また、担い手と効果的な情報発信方法を一緒に考え協力していく。同様に拠点に地域情報を発信できる仕組み(アプリ、ホームページ、SNSなど)を引き続き整理し発信していく。

・情報過多により、どこに情報を取りに行けばいいかわからないという養育者の声がある。引き続き養育者のニーズ把握に努め、担い手からの生きた情報を含め情報内容を整理していく。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。

イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。

ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。

エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。

オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。

カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。

キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手に関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)																																				
		法人	区																																			
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	・地区別子育て連絡会で培ったネットワークを利用し、地域でさらに拠点機能が活用できるよう目指していく。 ・地区別子育て連絡会で把握した課題を区全体で共有し、地域で課題解決に向けた取り組みができるよう目指していく。	A	A																																			
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B																																			
☆さまざまな養育者・地域関係者が拠点機能を利用できる(H29年度～)		B	B																																			
評価の理由(法人)																																						
(主なデータ) ①-1区内関連施設との会議 ・子育て連絡会全体会 (H30年度より年2回開催) 参加者数 H30年度 92名 R1年度 107名 R2年度 194名 R3年度 119名 ・地区別子育て連絡会 延べ開催数 H29年度30回 H30年度31回 R1年度28回(中止2回) R2年度21回 R3年度21回 おもな参加団体：区、拠点、親と子のつどいの広場、地域ケアプラザ、子育て支援者、主任児童委員、地域のサロン、私/市立保育園、幼稚園、戸塚スポーツセンター、プレイパーク、区社協、戸塚図書館、男女共同参画センター横浜 ほか ・子育て支援者会議(毎月) ・主任児童委員会会議(随時) ・母子訪問指導員連絡会、こんにちは赤ちゃん訪問員定例会(随時) ・親と子のつどいの広場連絡会(年2回) ・ハートプラン策定推進委員会(年3回) ・地域のサロン訪問(H30年実施)⇒延べ34か所 ・とつかおやこフェスタ※注1 事務局会議(毎月) ・とつかおやこフェスタ来場者 R1年度約2,600名 R2年度(動画配信) R3年度1,801名 ※注1 とつかおやこフェスタ 子育て支援団体が出展する子育て中の家族向けイベント ①-2子育て支援に取り組む団体・個人・企業との連携 横浜市地域子育て支援拠点、認定NPO法人こまちぶらす、障がい関係グループのネットワーク「ポンテ」、戸塚地域療育センター、地域福祉活動ホームひかり、男女共同参画センター、マザーズハローワーク、市民団体(みんなの絵本のおうち、お茶の間楽交等)、イオンスタイル東戸塚店、西武赤ちゃん本舗、全国子育てタクシー協会、モレラ東戸塚共栄会、とつか区民活動センター、薬樹薬局、共立レディースクリニック、NPO法人こどもと未来、フードバンク浜っ子南、戸塚スポーツセンター、戸塚文化センターさくらプラザ、横浜市立大学、横浜保育福祉専門学校、俣野公園プレイパーク など																																						
☆とつか公園あそび隊活動実績※注2 (右表) R1年戸塚区アンケート とつか公園あそび隊※注2 認知度⇒26.8% (“知っている”川上町46.2%、品濃町42.9%、上倉田町35.3%)																																						
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5">とつか公園あそび隊実績</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企画数</td> <td>23</td> <td>23</td> <td>17</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td> 開催</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td> 中止</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>参加組数</td> <td>310</td> <td>293</td> <td>277</td> <td>274</td> </tr> <tr> <td>支援者数</td> <td>155</td> <td>136</td> <td>137</td> <td>141</td> </tr> </tbody> </table>				とつか公園あそび隊実績						H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	企画数	23	23	17	22	開催	18	18	16	19	中止	5	5	1	3	参加組数	310	293	277	274	支援者数	155	136	137	141
とつか公園あそび隊実績																																						
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																																		
企画数	23	23	17	22																																		
開催	18	18	16	19																																		
中止	5	5	1	3																																		
参加組数	310	293	277	274																																		
支援者数	155	136	137	141																																		
※注2 とつか公園あそび隊：地域ごとに開催する公園遊びを中心とした外遊び企画。拠点は取りまとめなどの事務局を担い、地域の支援者が主体となって運営している																																						

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築、推進している

- 1.地域ケアプラザ単位で行っている地区別子育て連絡会に事務局として関わり地域の子育て支援と一緒に取組んだ。
- 2.子育て連絡会全体会では、区とともに事務局を担い、コロナ禍でもいち早くオンライン開催を取り入れることにより、つながりを絶やすことなく、さらにより多くの関係者が参加できる体制を整えた。全体会で取り上げる内容には地域の支援活動に活かせるような取り組みの紹介や、親子を取り巻く現状についての研修を盛り込み、地域活動に活かせるようにした。また、ワークショップを開催、各地区での取り組みにつながった。
- 3.とつかおやこフェスタでは、拠点のネットワークを活かして関係機関、子育て支援サークル、NPO、市民団体、企業との調整を行い、参加者同士のつながりが生まれるような企画を区と協力し開催した。
- 4.親と子のつどいの広場4か所と区および拠点でつどいのひろば連絡会を毎年開催している。各広場の困りごとや課題を共有し、拠点のホームページやアプリでひろばの情報を発信するなど各種連携ができた。
- 5.18拠点の施設長間で連携し、子育て支援についての調査研究や、研修、フォーラムを開催した。拠点スタッフ間でも、SNS発信の方法や内容の共有をはじめ、緊急事態宣言下の親子に向けた支援策やひろば開所に向けての情報共有など活発なやりとりができた。
- 6.よこはまシニアボランティアポイント導入(R1年度)を契機に他分野(栽培、読み聞かせなど)の活動者や団体とのつながりができた。
- 7.子育て支援の社会資源が少ない地域で俣野公園プレイパークと共催で出張プレイパークを開催した。実施に当たり、町内会関係者から助言を受けたり拠点ボランティアがプレイパークにつながったりするなど新たなつながりが生まれ、近隣の子育て親子からも喜ばれたほか、フードバンクを拠点が持つネットワークを活かして様々な団体をつなぎ連携の輪を広げることができた

②拠点利用者を地域へつなぐためのしかけづくりを行った

- 1.転入や第一子出産などで、子育てに関する地域資源の情報に乏しい利用者には“地域情報セット”(特定のエリアに関する地域資源情報をひとまとめにしたパッケージ)をスタッフより説明を添えて手渡している。さらに、該当の地区担当や土地勘のあるスタッフが丁寧に利用者に寄り添いながら地域情報を提供している。
- 2.横浜子育てパートナーや地区担当が地域の子育て支援サークルを訪問し、運営状況の把握や運営者との顔つなぎ等を行うことにより、利用者を地域へ繋ぐ際にスムーズな連携ができています。
- 3.親と子のつどいのひろば連絡会での情報交換により、利用者へ各ひろばの状況や強みなども踏まえて案内ができるようになった。

☆築いたネットワークをもとに、さまざまな養育者・地域関係者を拠点機能に結びつけている

- 1.とつか公園あそび隊は地区別連絡会をベースに企画されているため、戸塚区内ほぼ全域で開催できており、距離的に日常的なひろば利用が難しい養育者との接点となっている。また、公園遊び時の町内会館のトイレ使用許可の声かけが町内会関係者からあったり、公園愛護会からのゴミ袋の提供など、開始5年を経て地域住民にも公園あそび隊の名称が浸透しつつあり窓口としての拠点ともつながりがひろがった。
- 2.地区別子育て連絡会を通して、地域関係者が拠点の情報配信ツール(地域こそだてカレンダー、メールマガジン、とつとあぶりなど)を情報発信に活用することができている。
- 3.SNSでの発信(instagram,youtubeなど)を開始。電話や来所での拠点利用に抵抗を感じている養育者の接点のひとつとして機能しはじめています。地域で活動する支援者にも拠点SNSの存在を紹介し、これを利用して発信できることを案内している。
- 5.地域のニーズを見極め、拠点のプログラム(土曜両親教室・0歳児プログラムなど)の地域開催など、地域と相談しながら検討していく。
- 6.子育て連絡会全体会で取り上げたことをきっかけに"まちあるきワークショップ"を開催。子育てに限らず広く地域活動をしている人を対象にしたことにより、地区社協会長や民生委員などに拠点を利用してもらう機会となり、関係づくりができた。

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

①地区別子育て連絡会は、区・拠点・地域交流コーディネーターが事務局となり、区内10か所で開催。地域の関係者や関係機関との連携を強化し、地区にあった取り組みを進めている。また、子育て連絡会全体会として、子育ての現状と各地区の特性や方向性を共有し、地区別連絡会の運営にいかせるものとしている。つどいの広場連絡会を開催することで、ひろば機能やつどいの広場の連携の強化につながった。

とつかおやこフェスタを継続して開催したことにより、民間団体を含めさまざまな関係機関と繋がり、ネットワークを構築することができた。

②地区別子育て連絡会のネットワークを活用し、公園あそびやマップなどの情報を拠点利用者に届けられるようにしている。
☆公園遊び隊事業を地域の公園で開催することで、拠点に物理的に来ることが難しい養育者へ外あそびの大切さを伝える機会となった。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・地区別子育て連絡会、つどいの広場連絡会、とつかおやこフェスタなどを通し、地域との連携強化は着実に進んでおり、それに伴い利用者をきめ細やかに地域へつなぐことができている。コロナ禍においてもオンライン活用が実現し、途切れることなく地域とのつながりを保つことができた。横浜市版子育て世代包括支援センターとして、区とともに産科医療機関との連携も開始した。地域と拠点、それぞれの機能を生かすことができる連携の形を模索しながら取り組んでいる。

・子育て連絡会全体会では、子育て支援関係者同士で区域共通の課題について話し合うことができている。

・公園あそび隊は徐々にではあるが地域に浸透しつつある。その地域に応じた形での定着を目指し、ネットワークを活かしながら協力・運営している。

(課題)

・子育て連絡会全体会では、親子のニーズをとらえつつ、戸塚区全体としての実情を把握し、関係機関と共通認識をとりながら方向性を整理していく。

・公園あそびは、イベント化、形骸化しないための方法の検討など、連絡会・地域との連携を深めながら取り組んでいく。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧を受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 2期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができています。	・子育て家庭をあたたく見守る地域づくりのために、区と拠点で連携を継続していく必要がある。 ・新たな人材発掘のために、講座開催方法等を検討する必要がある。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		B	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

- とっとの芽ボランティア登録数 東戸塚 91名 サテライト 24名 計 115名 (R3年度末時点)
- とっとの芽ボランティア実働数 東戸塚 193名 サテライト 205名 計 398名 (R3年度末時点)
- 地域支援者との会議・研修等：子育て支援者定例会(毎月)、つどいの広場連絡会(年2回)、主任児童委員遊びの講座(年1回)、地区別子育て連絡会 延べ開催数 (R3年度21回)
- 保育教材貸し出し数：H29~R3 計309点
- 学生実習・見学受け入れ人数：H29~R3 述べ52校 述べ528名(大学・専門学校372名、中学校36名、小学校120名)
- 親子サークル登録団体数：H29年度⇒15サークル、H30年度⇒16サークル、R1年度⇒12サークル R3年度⇒6サークル
- 啓発・周知の場：地域施設連携促進研修会(毎年)、地域福祉保健計画会議(毎年)、地域づくり大学校(R1)、大学講義2校(R1)

【主なとっとの芽のサークル活動(R3年度)】

- ・ちよきとママの会※注1 参加人数：年6回 延べ 30名
 - ・ふたごみつごの会※注2 参加人数：年11回 延べ 26名
 - ・劇団びよびよ※注3 参加人数：年19回 メンバー10名 出演場所：拠点おたのしみタイム、とつかおやこフェスタ、地域の支援会場等
 - ・おんがく隊 参加人数：年2回 16名
- ※注1 ちよきとママの会：発達がちよと気になる子を持つママの会
 ※注2 ふたごみつごの会：多胎児を育てる養育者の会
 ※注3 劇団びよびよ：利用者で結成した人形劇団

①地域で子育て支援にかかわる団体・個人と連携し、地域活動の活性化を図った

- 1.地区別子育て連絡会に事務局として関わり、地域の子育て支援と一緒に取り組んだ。
- 2.つどいの広場連絡会を毎年開催し、それぞれの施設の様子や取り組みを共有できた。拠点のスーパーバイザーを連絡会に招き、相談対応について意見交換を行い日々の活動に活かせることができた。
- 3.主任児童委員からの依頼で年1回遊びの講座を実施、日頃の活動で取り入れられる簡単な遊びや手づくりおもちゃを紹介している。
- 4.子育て支援者会場などから写真やコメントを集め、とっとの芽ホームページで紹介。今後は、主任児童委員が行う子育て支援サークルや親子サークルの情報についても同様に紹介できるように調整しており、周知の協力をしている。
- 5.地域の支援者向けに保育教材(大型絵本等)の貸出しを行っている。

※主な貸出先：主任、学校読み聞かせボランティア、親子サークル、保育園等

②子育て支援に関心のある人や、養育者自身の活動意欲に寄り添い、活躍できる場に繋いだ

- 1.新たなボランティア活動希望者を呼び込むことを目指しよこはまボランティアポイント制度を導入した。ボランティアが企画した内容を取り入れ、積極的に関わるようにしている。
- 2.利用者主体で立ち上がった人形劇サークル「劇団びよびよ」が、とつかおやこフェスタに出演したことで、周知の機会となり活動の場所が広がった。また「ふたごみつごの会」は先輩ママが新米ママのサポートに入るなど参加者同士が助け合う土壌ができていて、まちで見かけた多胎児を持つ親へ向けても声掛けをしつらつながりが広がっている。子育て応援ガイドブック「まっぴい」の改定のため区と共に開催した「まっぴい座談会」に参加した養育者が「まっぴいママプロジェクト」として、企画・編集に携わってもらっている。
- 3.ボランティア入門講座として絵本の読み聞かせを開催したところ、利用者約10名とシニア世代が参加し「絵本の会」が発足。サテライト立ち上げ時の購入本リストアップや配架準備などで活躍した。
- 4.地域福祉保健計画と連携し「子どもにかかわるボランティア入門講座」を企画。保育付きにしたことで子育て当事者も参加することができ、また参加者の活動先紹介として拠点だけでなく近隣施設の紹介も盛り込んだことで13名の申込があり、その後の活動につながった。

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

- 5.拠点利用者の得意なことなどを聞き取り、講師として活躍できる場の提供や、地域につなぐことができた。
- 6.働く母の増加で、平日の日中に参加できる親子の減少傾向から親子サークルに加入する親子も減少しているため、サークル継続が難しくなっている。仲間とともに子育てをしていくことの視点を大切にしながら支援していくことが必要である。

③地域で子育て家庭を見守る大事さを伝えた

- 1.施設見学者や実習生、学校・関係機関からの依頼で、横浜市の子育て調査データや子育て家庭の現状、拠点の役割、子育て支援の場の必要性や地域全体で子育て家庭を見守る必要性を伝えた。
- 2.中学生の職業体験や近隣小学校の社会科見学では、拠点の役割を伝え、ひろばで過ごす赤ちゃんの抱っこ体験を行った。体験した中学生のほとんどは、親に感謝したい気持ちになったと拠点に来たことを喜んでいて。
- 3.高齢や障がいなどの関係機関が参加する場へも出向き、子育ての現状や拠点の役割を伝えた。

④小・中学生・高校生・専門学生・大学生、妊娠中の夫婦に子育て体験できる場を提供した

- 1.卒業研究、実習、ボランティア体験などで学生を積極的に受け入れたことで、養育者との交流や子どもと触れ合うことができ、子育ての楽しさ、大変さを伝えることができた。また、自身が親になる前に赤ちゃんのお世話を体験できる場となり喜ばれた。
- 2.妊娠期の夫婦対象に土曜両親教室を毎月開催した。0歳児をもつ夫婦と交流できる時間を設定したことで実際に赤ちゃんを抱っこしたり、先輩からのアドバイスを聞くことができ、産後の赤ちゃんとの生活のイメージ作りができたことと好評を得た。

評価の理由(区)

- ①子育て連絡会やつどいの広場連絡会を通じ、研修や情報交換の場をつくることで、各地域の担い手のモチベーションの向上や活動の活性化につながった。公園あそび隊では、地域の担い手に対し、外遊びの大切さを再度伝えることで、知識の向上と活動の充実につながった。
- ②③とつかおやこフェスタでNPO法人やママサークルの劇団が参加することで当事者が活躍できる場を提供し、当事者の意欲向上につながった。合わせて、区民に現状を伝える機会となった。地区別子育て連絡会で子育ての現状や子育てについて話し合い、地域活動の大切さを確認している。地域福祉保健計画など他課とも情報交換しながら支援している。
- ②親子サークル支援では、交流会の他、ケアラザで活動を始めるサークルと区の事業との連携について検討、また公園遊びにサークルを招くなどして、活動を支えるための支援を行った。
- ④拠点が実施する土曜両親教室では、プレパパプレママと先輩パパママとの交流について意義を伝え内容に盛り込むよう助言し、学びあえる視点を取り入れることができた。
- ④中学生の職業体験のプログラムに地域子育て支援拠点も加えてもらえるようにし、体験の場になるよう調整した。

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・ひろば利用者やボランティアの声をとりいれ、得意なことを活かした取り組みや活動につなげることができた。
- ・子育て家庭の現状や課題、子育て支援の必要性を地域支援者や学生、地域福祉保健計画会議などで発信することができた。
- ・地域の担い手や支援者に対し、情報発信や講座の実施、相談対応についての助言を行うことで、地域の活動を支えることができた。

(課題)

- ・親子サークルに加入する親子も減少や企画などの負担感から、サークル継続が難しくなっている。拠点・区共に活動の意義や目的を再確認し、仲間と子育てをしていくことの視点を大切にしていくとともに、今のニーズにあった形で地域の担い手と活動を支えていけるようにしていく必要がある。
- ・拠点ボランティアや横浜子育てサポートシステム提供会員など多世代にわたる地域の担い手が、広く地域全体で子育て支援に取り組む雰囲気づくりを目指したい。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考) 1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・引き続き会員のニーズを汲み取りながら利用調整をしていく。また、利用会員が必要な時に利用しやすい仕組みづくりを検討していく必要がある。 ・多世代(現役の子育て世代～シルバー世代)の提供会員が増えるように、関係機関や多世代の地域住民に向けた効果的な周知方法を検討する。 ・子育てサポートシステム開設時から、子育てを取り巻く社会情勢の変化にともない、早朝、深夜、長時間の依頼等といった支援が困難な事例が増加してきており、本制度の在り方について検討する必要がある。	A	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		B	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

会員数

	全体	利用会員	提供会員	両方会員
H28年度	754	577	136	41
R1年度	1,032	828	162	42
R3年度	1,100	903	155	42

活動件数

H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
2,012	2,087	2,745	2,538	2,784

事前打ち合わせ同席件数

H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
113	137	164	122	172

ひろば預かり件数

H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
36	76	161	154	205

- 利用会員、両方会員向けアンケート (H30.8月 戸塚区支部実施) 回収42件 利用したことがある人の回答20件 「事前打ち合わせで確認したことで利用する際の安心感につながったか」 : はい又はどちらかというとはい 100% 「依頼した内容で提供会員の紹介が受けられたか」 : はい又はどちらかというとはい 100%
- 区民意識調査 (R1) 日常生活の中で地域の人を手伝えること こどもの預かり : 5.0%、地域の人何か活動を始めたら協力したいか「積極的に協力したい」4.8%、「機会があれば」61.8%、ボランティアをしているか60歳代～増加「60歳代」15.5%
- 区役所「とつとの芽」に関するアンケート ボランティア活動参加について「子育てが落ち着いたら考えたい」37.1%

① 幅広く周知したことで、多くの区民の参画が得られた

- 1.ホームページやつうしん、区内のイベント等で幅広く周知し、横浜子育てサポートシステムの認知が広がった。また提供会員拡大を意識し、地区別連絡会で地域の子育て支援関係者に周知したことで、会員拡大につながった。
- 2.区社協、とつか区民活動センターと連携し、特に高齢者等の提供会員向けに入会説明会を開催し、会員拡大に取り組んだ。
- 3.提供会員は会員の口コミでも増えていることから、横浜子育てサポートシステムの理解とコーディネーターの対応が会員に受け入れられている。
- 4.区と連携し、さらに提供会員になりえる新たな層の獲得を考えていく。(中学校のPTAなど)
- 5.戸塚駅周辺、サテライト周辺の需要が多いので周知に力を入れて会員を増やしていきたい。
- 6.サテライトでの入会説明会を定期的に開催。子サポの日を作り、コーディネーターがサテライトに常駐する日を設けた。

② 養育者の事情に合わせて柔軟に対応した

- 1.集団の入会説明会の日程が合わない場合や緊急で援助が必要な養育者には、都度個別の入会説明を行い、利用しやすいよう柔軟に対応した。
(入会説明後、直ちに入会手続きを行いコーディネートした/外出が難しい養育者には、お宅へ訪問し入説した…など)
- 2.ひろばスタッフや横浜子育てパートナーと連携し、横浜子育てサポートシステムに関心のある利用者や援助が必要な利用者には、その場でヒヤリングし利用につなげた。
- 3.養育者の疾病等緊急を要する対応が必要な場合や、当日依頼にも柔軟に対応した。また、連日長時間にわたる依頼には複数の提供会員を紹介し、定期的にフォローした。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

③ 会員の状況把握をベースに、関係構築に努めた

- 1.利用会員の依頼に寄り添い、提供会員の状況（思いやキャパシティなど）を把握し、合意のもとにサービス利用へつなぐよう丁寧にコーディネートを行った。利用会員へのアンケート調査では、提供に対する満足度は比較的高く、会員同士の信頼関係のもとに安心安全な活動へつながっている。
- 2.利用会員と両方会員にアンケート調査を行った。提供に対する満足度は高い一方で個人情報の取り扱いへの不安やコーディネーターの対応についての指摘があったことから、コーディネーター間で共有し、注意事項について再確認するとともに横浜子育てサポートシステムについての理解をお願いした。
- 3.お試し預かりの期間を延ばしたことで、お試し預かりを利用する会員が増えた。その預かりの様子をひろば利用者が見ること、ひろば預かりとリフレッシュ利用の宣伝、周知につながり利用が増加した。今後は、また登録していない人へ登録のきっかけづくりとなるように検討していきたい。
- 4.個人情報の取り扱いについて、拠点内でワークを行いフローチャートを作成した。また、会員向け案内文を作成し、より分かりやすく個人情報についての注意喚起をした。引き続き、個人情報の保護を職員・提供会員含め徹底していく。

④ 区や拠点内で連携し、養育者へ適切な情報を提供し支援につなげた

- 1.区や横浜子育てパートナー及びスタッフと連携し、必要に応じて地域情報を提供し実際の利用につながった。（つどいの広場での一時預かり、緊急一時預かり、子育てタクシーなど）
- 2.区内の一時預かりに空きがなく、横浜子育てサポートシステムが最後の砦となっていることを感じる。

評価の理由(区)

- ①広報よこはま、こんにちは赤ちゃん訪問員の連絡会やとつかおやこフェスタの動画などで周知する場を設けることができるよう協力し、登録者の増加につながった。
- ①課内に事業周知をはかり、窓口で案内、必要な方に情報が届くようにした。
- ②③より地域で利用しやすい事業となるよう子育て連絡会で横浜子育てサポートシステムについてのPRを担当者から行いシステムを知ってもらう機会となった。
- ③個人情報保護・安全確保について、確認助言を行い適正に取り扱えるようにした。
- ④専門的な対応が必要な方も、サービス利用ができるよう連携して支援した。

拠点事業としての成果と課題

【成果】

- ・幅広く事業周知したことで、より多くの人に知ってもらうことができ、会員数増加につながった。
- ・養育者の事情に合わせ入会説明会を行い、利用しやすいように対応した。丁寧なコーディネートを行うことで、会員同士の信頼関係のもと援助活動を行うことができている。
- ・ひろば預かりやリフレッシュ利用が増加していることから、気軽に預けられることが周知されてきている。
- ・入会説明会は、コロナ禍で出張説明会ができないこと、人数制限を余儀なくされた対策として、オンラインでの説明会を開催し、外出が難しい養育者のニーズに答えた。それによって会員数増加に繋がった。

【課題】

- ・提供会員数が地区により偏りがあるため、会員を増やしたい地域を重点に周知活動を行っていく。また区と協力し新たな層（小・中学生保護者）への周知も視野に入れていく。
- ・個人情報取り扱いについては、定期的に注意喚起を行っていく。また職員間でも取り扱いには厳重注意し、確認作業を徹底して行う。
- ・拠点のネットワークを生かし、拠点ボランティアや子育てサポートシステム提供会員など多世代にわたる地域の担い手を通じて、広く地域全体で子育て支援に取り組めるよう目指したい。（人材育成・活動支援事業 再掲）

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報を会員が適正に取り扱うことができるよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、子ども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考) 1期目振り返りの課題	自己評価 (A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・養育者に対して、更に効果的な周知方法を検討し実施していく。 ・相談対応にあたり、引き続き寄り添い丁寧に受け止め、次のステップを意識して支援の展開を図る。関係機関とのつながりを深めていく。 ・刻々と変化する行政、関係機関の情報をタイムリーに伝え、区と利用者支援が連携しながら適切な対応に努める。	B	A
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

- ・主な周知先 区民：拠点のホームページ（常時）、つうしん（毎月）、インスタグラム（随時）、4か月児健診、両親教室、赤ちゃん教室、
- 拠点での土曜両親教室
- こんにちは赤ちゃん訪問でパートナーチラシを全戸配布
- 関係機関：地区別子育て連絡会など子育て関係機関や地域の支援者の会議へ参加
- ・出張相談（戸塚の子育て応援ルームととことこ〈毎月〉、ゆうゆうひろば）
- ・地域訪問（親と子のつどいの広場、赤ちゃん教室、子育てサークル他）
- ・地区別子育て連絡会、支援者定例会
- ・相談件数（R3年）：東戸塚：282件（電話71件、出張33件）、サテライト：234件（電話37件、出張43件）

	H28年度	H30年度	R1年度
知っているが相談したことはない	69.0%	63.5%	72.0%
相談したことがある	10.0%	12.0%	8.0%
今後相談したい	3.0%	4.0%	4.0%
知らなかった	18.0%	14.0%	9.0%
未記入	-	5.0%	7.0%

①区民や関係機関に向けて利用者支援事業の周知活動を行った

- 1.拠点のホームページやつうしんで毎月周知し、区の仲介や拠点のネットワークを活用し、両親教室や土曜両親教室、4か月児健診、赤ちゃん教室、公園あそび、親と子のつどいの広場、主任児童委員主催の子育て支援サークル、他団体が開催しているプログラムに参加し周知活動を行い、活動の様子の把握に努めている。
- 2.地区別子育て連絡会、サポート連絡会（要対協）、分娩取扱医療機関連絡会、支援者定例会、赤ちゃん訪問員定例会、地域施設間連携事業研修に参加、生活支援センター、産院、母子生活支援施設、認定こども園を訪問し周知に努めた。
- 3.とつかの子育て応援ルームととことこへ毎月出張相談を行い、相談者と一緒にごども家庭支援課に付き添う事例もあった。
- 4.サテライト開所により横浜子育てパートナーがR1年度3月から2人体制になったため、拠点から遠方の地域への周知活動を更に充実させたい。

② 養育者に寄り添いながら相談に応じ、必要な支援に繋いだ

- 1.電話相談対応時も「顔が見える関係」を意識して、できる限りひろば利用に繋ぎ個々のニーズに適した情報を提示し相談者が選択できるよう配慮した。
- 2.横浜子育てサポートシステムの入会説明会から繋がった相談者に対して、区と情報共有をしながら各機関と連携し、迅速な対応ができた。また相談者がひろばを利用している際はひろばスタッフと連携し継続したサポートをすることができた。
- 3.転居などで他区の横浜子育てパートナーから引き継いだ養育者には、事前に必要な情報を集めたり、困りごとを丁寧に聴き取るなど継続した支援ができた。
- 4.学齢期（小学生～高校生）の養育者からの電話相談には、養育者の気持ちを受け止め、情報提供、必要な支援に繋いだ。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

③拠点のネットワーク機能を活用し、多角的な視点から相談者に対応するよう努めた

1. 妊娠期から産後早い時期を中心とした支援を拡充するために、横浜市版子育て世代包括支援センターとして拠点の「当事者目線」での関わりに努めた。母子保健コーディネーターとの連携で、支援が必要な妊婦を拠点のイベント利用に繋げた。また、妊娠期の養育者の不安を知り、拠点での土曜両親教室など支援に繋がるよう工夫していきたい。（産後うつ予防等）
2. 地区別子育て連絡会、子育て支援者会場に出向き、利用者支援事業の機能や拠点利用者の状況を伝え、拠点に来所していない親子の情報を把握するなど、地域との関係強化に努めた。また、毎月、子育て支援者定例会に参加し、必要な情報提供を行ったり支援の必要な養育者の把握に努めた。
3. 支援が必要な養育者について、保健師から同行依頼を受け、定期的な拠点利用を促したり、児童相談所、区、拠点で連携し、養育者と子どもに必要な情報提供や見守り等多角的な支援を行った。
4. 1歳6か月児健診後に2歳のフォロー電話まで不安を持つ養育者が多いことを捉え、養育者向けに、療育センターの協力を得て「発達懇談会」を開催し、養育者に寄り添い不安軽減に努めた。またポンテの会※注1の定例会に参加し、情報共有し、拠点での相談や情報提供に役立てた。

※注1 ポンテの会：お子さんの発達が気になる、障害があるけど、どこに相談したらいいかわからない・家庭を対象に、戸塚区内で親子支援をしている団体の集まり

評価の理由(区)

- ① 横浜子育てパートナーを区民、関係機関に対して周知し、利用促進がはかれるよう広報媒体の活用、会議への出席など調整した。4か月児健診では子育てパートナーが周知しており、保健師が問診に必要な方に対し、子育てパートナーにつないでいる。
- ① 横浜子育てパートナーの認知度は広がったが、利用の現状には地区の偏りがある。拠点に物理的に来所が難しい方向けに、出張相談などでの利用ができるようにしていくことが必要。
- ② 相談対応について、一緒に考え、助言する機会を設けた。より専門的な支援が必要な方は区や関係機関にスムーズにつなげることができている。
- ③ 拠点のネットワーク機能と連動し、関係機関との関係づくり・関係強化を行っている。今後、相談の振り返りや検討の中から、課題を抽出し、拠点事業の充実や地域資源の開発などを図っていく。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・ 養育者自身のことや育児への不安を傾聴し、相談者が抱えている問題を整理できるよう努めた。また区や関係機関と連携し、必要な情報提供や支援に繋ぐなど迅速な対応ができた。その後もひろば利用時はひろばスタッフと連携し継続したサポートをすることができている。
 - ・ 関係機関の会議等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりに努めたことで、横浜子育てパートナーとしての認知度が上がり連携に繋がった。
 - ・ 土曜両親教室では、産後の不安軽減に役立つよう居住地域の子育てに関する情報提供に努め、横浜子育てパートナー相談の周知を行ったことで、産前産後の電話相談に繋がった。オンラインでも産前産後カフェを開催したり、プレママ・プレパパが来館した際は沐浴体験のフォローやひろばに来ている親子につなげるなど、産前産後の不安軽減の一助になるよう努めた。
 - ・ 子の発達に不安な養育者の集まりの開催や、「ダウン症児の会」を立ち上げたり、多胎児に特化した両親教室を開催し、多様な養育者の不安軽減につながった。
- (課題)
- ・ 妊婦の実情やニーズを区と拠点が共有し、横浜市版子育て世代包括支援センターとして切れ目ない支援を更に充実させていく。特に妊娠～産後の時期に丁寧な寄り添い、養育者自身が安心感を持って子育てに取り組めるように支援していく。
 - ・ 今後、相談の振り返りや検討、地域で得た親子の情報の中から、ひとり親支援や障がいなど多様な養育者に向けて区と協議しながら課題を抽出し、不足した資源をネットワークを活用し充実させていく。
 - ・ R2年3月より横浜子育てパートナーが2人体制になったことで、東戸塚エリアと戸塚エリアに分担した。より丁寧なニーズ調査を行い支援に繋がる新たなネットワーク(出張相談含め)の構築を行っていき、更に関係機関への周知をすすめていく。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。

様式1-7 地域子育て支援拠点事業評価シート

- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・各事業については、区・拠点の担当で打ち合わせを重ね、事業計画～振り返りの段階まで目的や方向性を共有できている。
・定例会(月1回)を活用し、新規の企画については、説明資料を作成し目的や方向性を全体で共有、既存の企画についても目的を確認する機会を設け、共有している。都度進捗状況を確認し、意見交換ができている。

【今後改善が必要と思われること】

・基本目標を繰り返し確認し、当初の目標からゴールに向けて適切な事業計画が立案できるようにする。
・関わる職員がみな、課題や目的を共有して事業を実施できるような体制を作っていく必要がある。
・計画段階から評価計画も含めて立案する。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

1に同じ

【今後改善が必要と思われること】

・事業を進めていくにあたり、拠点機能の充実に合わせて、区の事業への関わり方・役割をその都度、検討・整理していく必要がある。
・個人情報の取扱いに関して、区・拠点の共通認識を深めて対応していけるようにする。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

1に同じ

・事業の計画から振り返りまで実施し、新たな事業への展開につながっている。

【今後改善が必要と思われること】

・区、拠点それぞれの役割を明確化し、役割に応じた視点でその都度状況の確認をする機会を設け、適宜、計画の修正を行う必要がある。
・区の事業目標を明確にした上で、区・拠点それぞれがとらえる親子や子育て世帯の現状や課題を共有し、事業を進めていけるようにする。